

2023年度酪総研シンポジウム

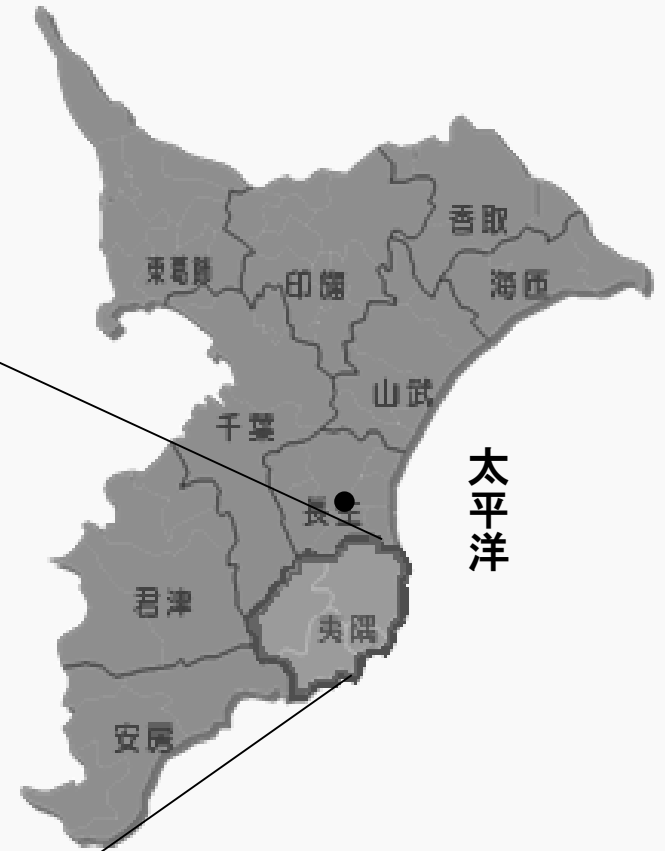
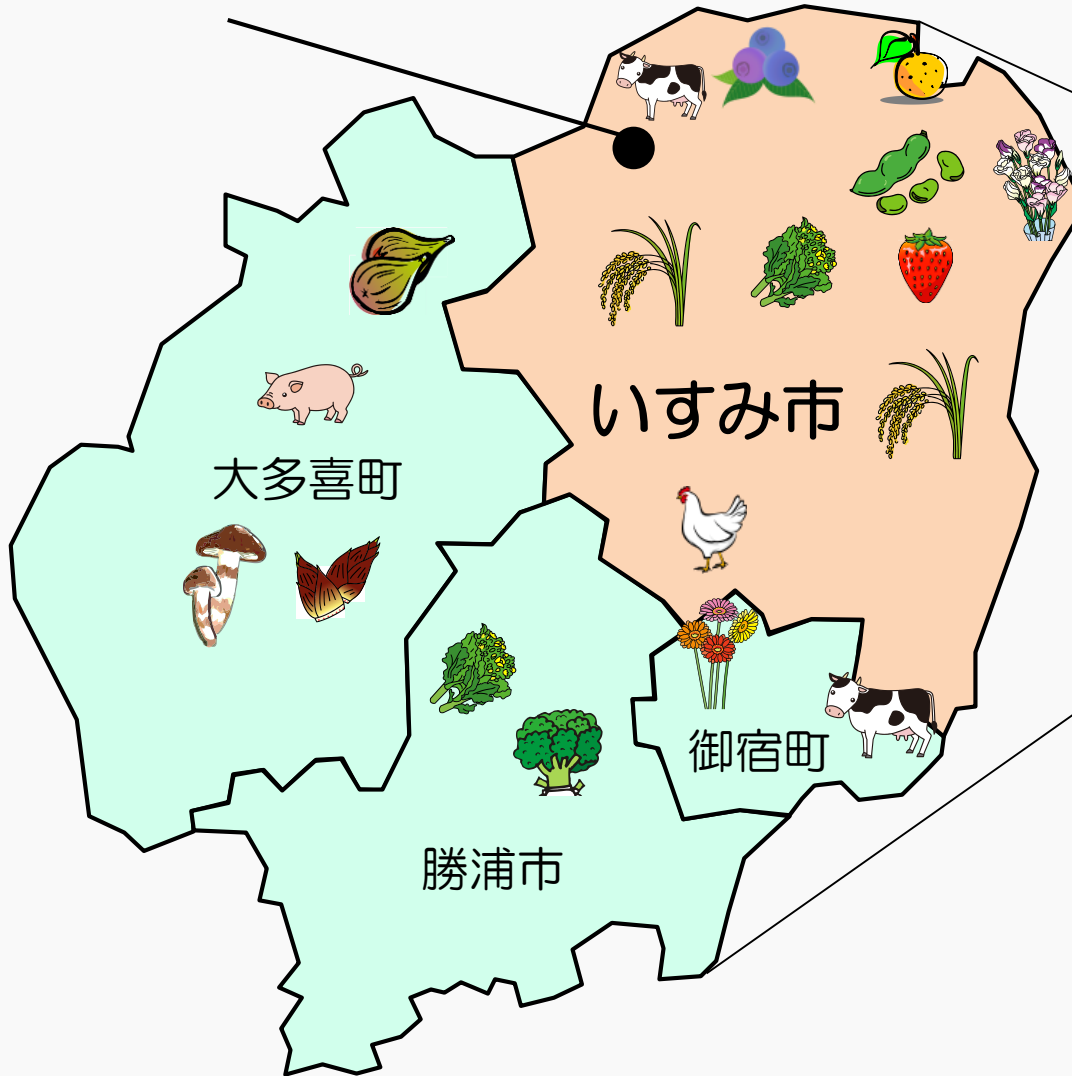
酪農経営において国産飼料100%への チャレンジ



有限会社高秀牧場
代表取締役 高橋憲二

地域の概要

(有)高秀牧場



牧場の経営概要



経営の規模

- ・飼養頭数 乳牛200頭
- ・飼料生産
 - 飼料畑 15ha
 - 夏作：トウモロコシ
 - 冬作：エンバク・イタリアンライグラス混播
 - 稲WCS 105ha、飼料米 60ha（共同8戸分へ供給）
- ・労働力 牧場スタッフ9名、工房スタッフ16名
- ・チーズ工房 H24.4月オープン
- ・ミルク工房 H28.6月オープン







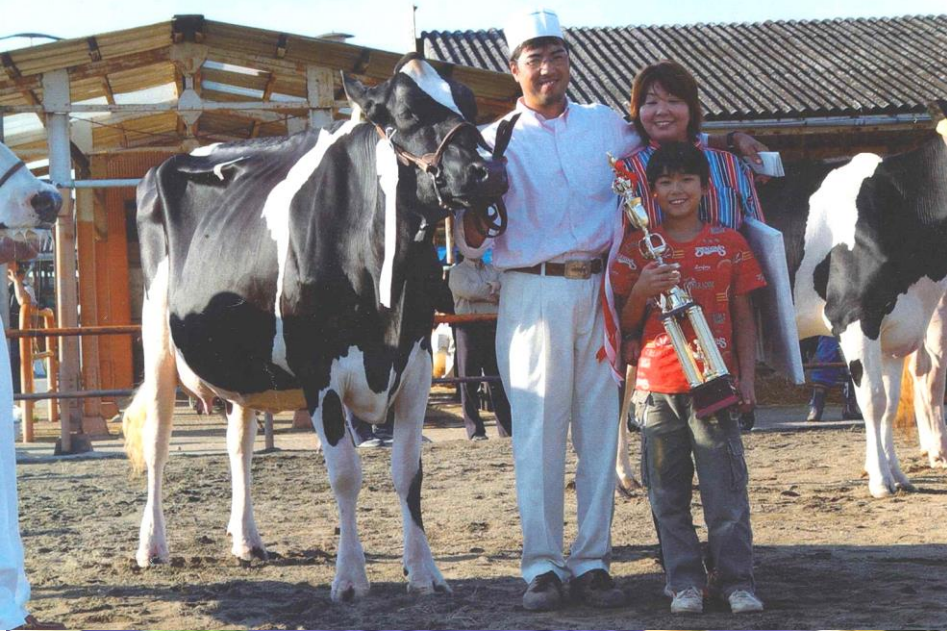
2015年 Mondial du Fromage

スーパーゴールドメダル 受賞





良質な牛乳生産、長命連産を目指した牛群改良



飼養管理技術の向上



アイデナエンタープライズの立ち上げ

目的／ふん尿処理の課題解決

設立／平成9年（法人化 平成12年）

構成／酪農家5戸（代表取締役 高橋憲二）

内容／自給飼料生産

堆肥及び液肥の生産販売

野菜の実証栽培



ロータリー式堆肥発酵施設



ナバナ畑

国産飼料資源での自給率向上への挑戦

- 1 トウモロコシ & 牧草サイレージ生産
- 2 耕畜連携の仕組みづくり
- 3 水田をフル活用した粗飼料生産
- 4 地域内で生産される飼料用米の利用

トウモロコシ&牧草サイレージ



トウモロコシ
5~8月



牧草
9~4月



サイロ



給与

耕畜連携の仕組みづくり

稲作農家

稲WCS・牧草
生産

堆肥散布

飼料提供

堆肥生産

+

飼料給与


飼料販売

収穫・運搬


酪農家

アイデナ
エンタープライズ


水田をフル活用した粗飼料生産 (稲WCS)



栽培管理
5~7月



収穫
7~8月



調製
7~8月



堆肥散布
8月

水田をフル活用した粗飼料生産 (二毛作・イタリアンライグラス)



耕起・播種
9月



エン麦収穫
11~12月



イタリアン収穫
4~5月



保管

水田をフル活用した粗飼料生産 (二毛作・デントコーン)



7月 収穫



11月 収穫

地域内で生産される 飼料用米の利用

収穫、搬送

稲作農家



＝ 稲わら ⇒

収集

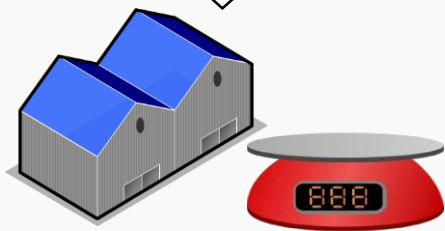
アイデナ



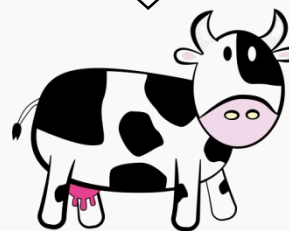
┌
玄米20円/kg

流通

┌
15円/kg



＝ 20円/kg ⇒



アイデナ

酪農家

検査、保管

給与

飼料用米

搬入 & 計量



飼料用米 水分測定

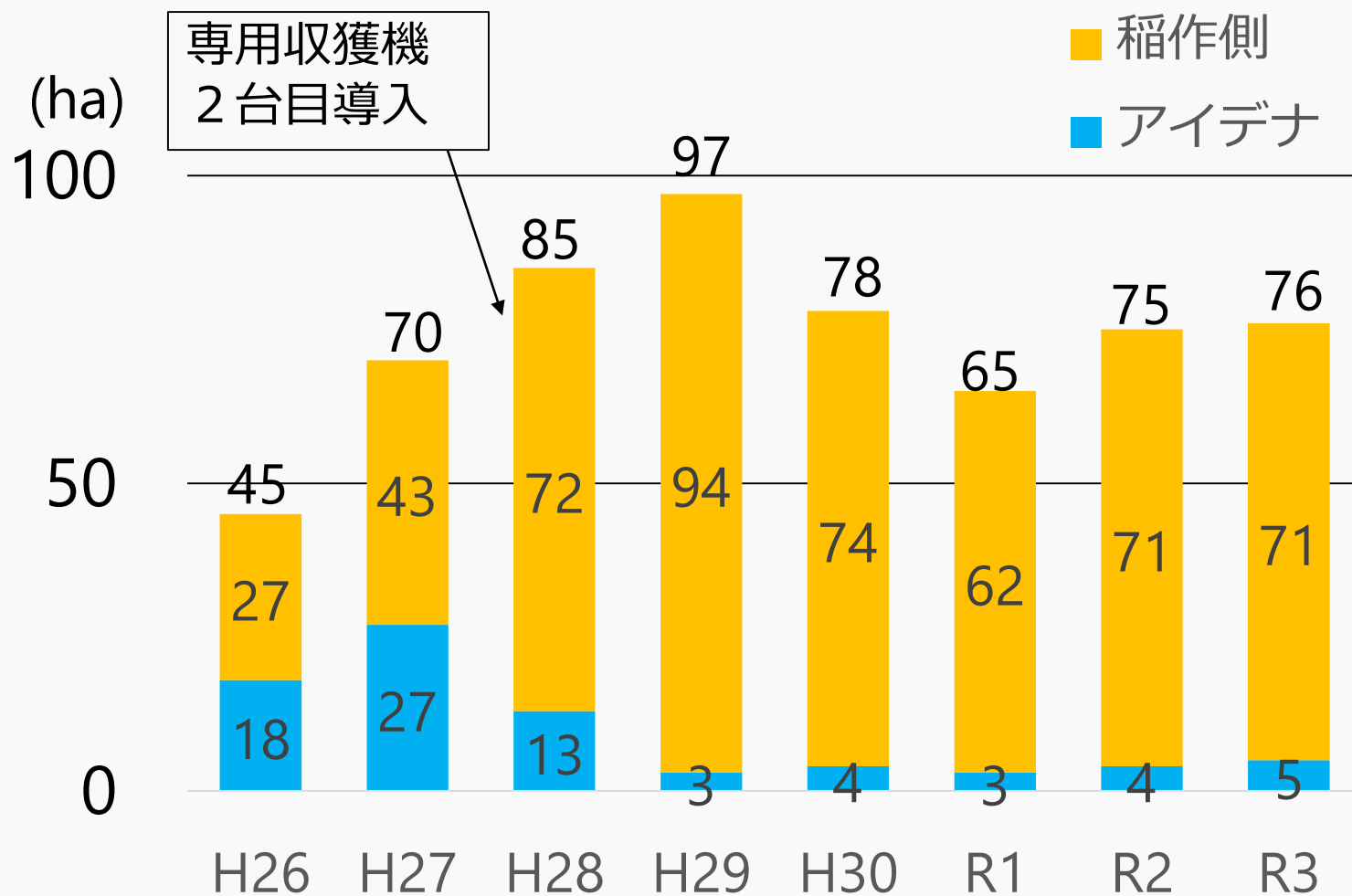


飼料用米 粉碎機



作業のアウトソーシングによる省力化！

1 飼料生産コントラクターの設立



コントラクターによる収穫面積の内訳

作業のアウトソーシングによる省力化！ 千葉北部酪農いすみTMRセンター試験運用



千葉北部酪農協同組合 里山プロジェクトについて



千葉北部酪農農業協同組合

代表理事組合長 高橋憲二

YACHIYO MILK

新たなプロジェクトの立ち上げ

- 輸入飼料に依存しない国産飼料での畜産経営の確立
- 高齢化が進む稲作農家に代わって、地域の担い手となり里山の保全に取り組む
- 雇用を創出し、人口流入を促し、農業分野のスキルアップを支援することで地域活性化を図る
- 国産飼料を給与して育った牛を使用した独自商品開発、新ブランドの立ち上げ

輸入飼料に依存しない国産飼料での 畜産経営の確立

自給飼料による
コストダウン

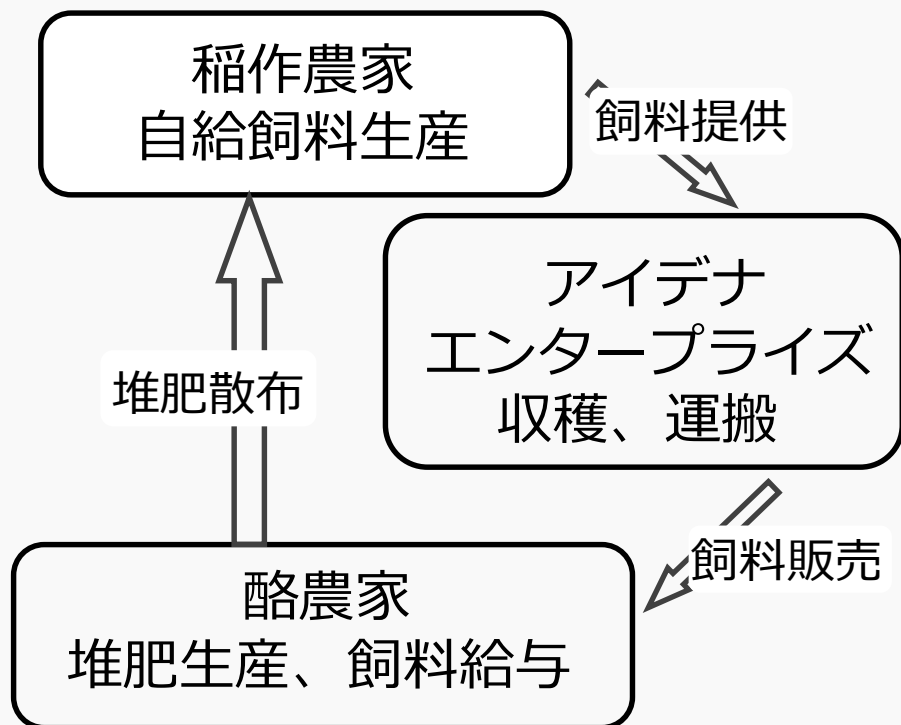
**(合) ホクラクアグリ
設立**

コントラクター
システムの整備
耕畜連携

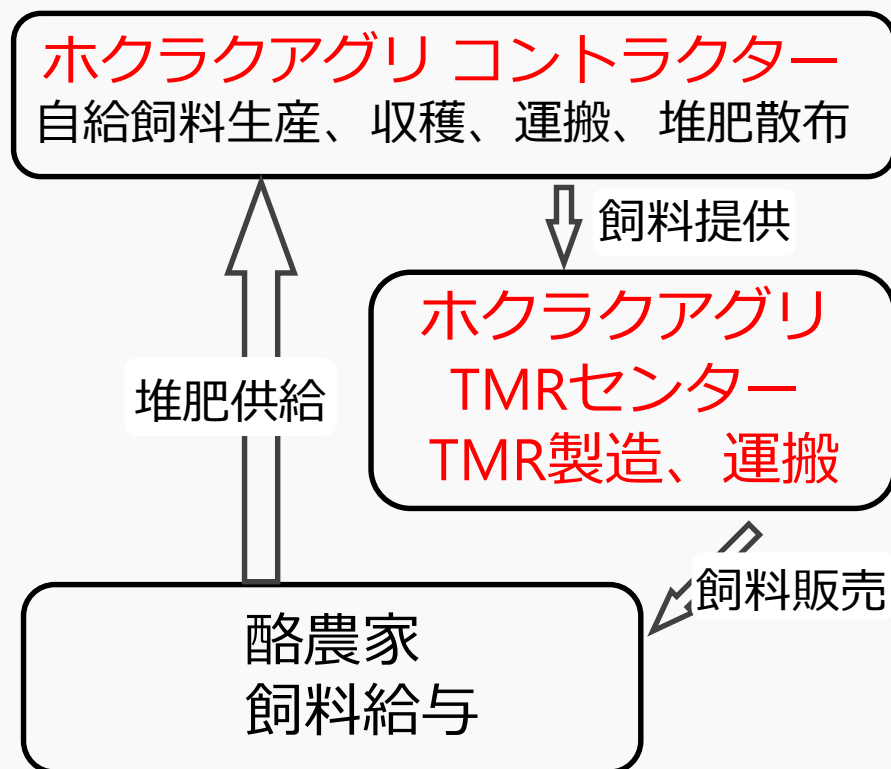
TMRセンター設立
餌やり業務効率化

ホクラクアグリ
旭農場
肉牛生産

これまでの流れ



新しい形



- ・ 飼料生産からTMRセンターでのTMR製造、運搬までを担う⇒畜産農家の労働負担の軽減し、収益性の高い経営を目指す

国産飼料100%を目指して

- リビングマルチを利用した大豆生産



環境への影響

- ・ 国産飼料を使うことで、**海外からの輸送で発生するCO₂を減らす**ことが出来る
 - ・ バンカーサイレージを使うことで**ラップサイロで発生するプラごみを削減**できる
- 里山プロジェクトは「CO₂削減」にもつながっている**



環境への影響

・人間の食料の副産物（ビール粕や酒粕、醤油粕、農場残さ）等を利用することで、**産業廃棄物を有効活用**できる

○**畜産業のメリット→飼料コストの削減**

○**食品業者のメリット→廃棄物処理費の削減**

・地元で生産された飼料用米や稲WCS等を活用することで、**地域保全**になる



- 国産飼料を中心に給与した牛の生産物のブランド化

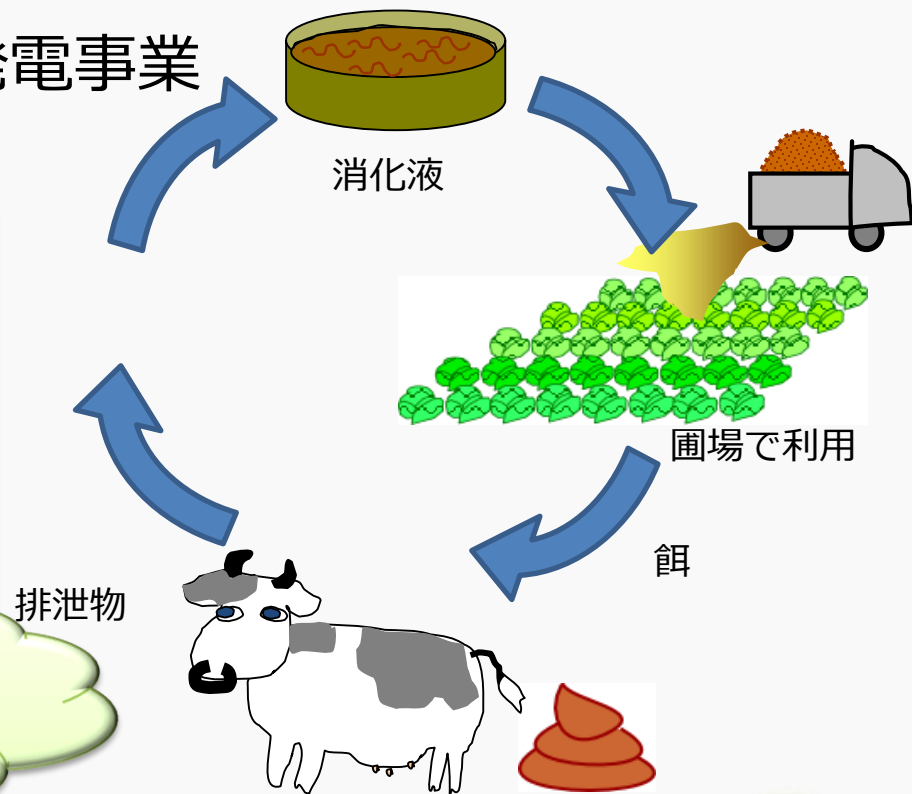


将来計画 環境への影響削減のために

- ✓ バイオガスプラント発電事業
- ✓ もみ殻を利用したバイオマス発電事業
- ✓ 太陽光発電



エネルギー生産
消化液は肥料利用



飼料、肥料、エネルギーも自給自足して
海外に依存することからの脱却が必要

今後の課題

- 農業は、飼料・肥料・燃料・電力などの高騰により、厳しい経営状態になっている。コスト上昇が価格に転嫁されていない状況がある
- 需要と供給で価格が決まる市場原理からの脱却
- 安定的な農業生産ができるような新しい法整備が必要
- 農業は農産物生産だけにとどまらず、六次産業化や、エネルギー事業など、多角的に戦略を練る必要がある

ご清聴ありがとうございました！

